

## 「熊本広域大水害の支援活動について」熊本県建設業協会阿蘇支部(抜粋)

日 時；平成25年2月23日(土) 10:30～

場 所；熊本県建設業協会阿蘇支部

出席者；

熊本県建設業協会阿蘇支部 (1名)

熊本県建設業協会青年部会 (6名)

沖縄県建設業協会青年部会 (12名)

### 1. 豪雨災害時の説明 支部長 内田 知行 氏

#### 豪雨災害に至るまでの経緯

阿蘇地方は阿蘇山を中心に外輪山で囲まれた地域である事から、阿蘇地域に降った雨は山の斜面から阿蘇市付近と逆側の熊本市内方面へ流れ出ていき、そこから黒川や白川へ流れが集中して河川の氾濫が発生する。

当時、阿蘇では7月10日頃から毎日のように雨が降り続き、7月12日未明から1時間当たり100mm超の大雨が3時間断続的に降り続いた。明朝6時頃から阿蘇外輪山の至る所で、爪でかいたように斜面崩壊が見された。

#### 熊本県阿蘇地域振興局からの「大規模災害時の支援活動要請」までの経緯

阿蘇支部では熊本県阿蘇地域振興局(以下、地域振興局)と「大規模災害時の支援活動」に基づく協定を締結しており、協定に基づき連絡体系を構築している。その中で河川や国道、県道のパトロール割当も会員内で行っている。

- ・12日未明3時頃、地域振興局土木部維持課より道路パトロールの要請が入った。
- ・要請を受けパトロールを行った所、道路が冠水してパトロールに出動できる状況ではなかった事からその旨を地域振興局へ報告。
- ・明朝5時頃、熊本県が災害対策本部を設置。7時頃に地域振興局より阿蘇支部へ「大規模災害時の支援活動」の要請が入った。
- ・要請を受け阿蘇支部土木委員長へ体制を取るよう指示を行い、各支部会員が連絡系統に基づき連絡を行い、各会員が担当路線のパトロールを行った。
- ・パトロール結果を地域振興局へ報告。報告を受けて地域振興局より機材導入等の指示が入った。
- ・地域振興局からの指示により阿蘇支部会員へ連絡。各会員が指示とおりに復旧活動へ出動した。

#### 災害が大きくなった一因

平成2年7月にも豪雨による災害が発生した。その後、業界として地域振興局に対して以下の点について申し出を行ってきたが予算の関係上厳しいとの事であり整備等は行われず、今回の白川や黒川の大氾濫に繋がる一因であったのではないかと考える。

整備を行っていたから全て大丈夫という事ではなく、減災という観点から災害が起きる一因となる箇所を整備はしっかり行うべきであったのではないかと考えている。

1. 阿蘇山からの火山灰が川のふもとへのえん堤に覆われている為に取り除くよう要請
2. 河川の掘削整備等

#### 大規模災害の支援活動時の問題点

- ・大規模災害時の支援協定締結後、初めての大災害であった事から連絡体系通りに連絡が行き届かなかった。
- ・国・県・市町村・民間からの応急活動の指示依頼が重なり混乱した。それに伴い人員不足になったがその状態さえ把握が出来なかった。特に土嚢の依頼が重なった
- ・協力体制の担当路線や河川を把握していない会員がいた。
- ・災害箇所が多すぎる為、担当職員と現場立会いが出来なくて具体的な指示がもらえなかった。
- ・担当路線を点検後、翌日応急措置に現場へ行ったところ既に他の業者が対応していた。

## 災害復旧活動の第一線で活躍する建設業者の姿

小泉政権から公共事業は大幅に削減され、仕事が減少する中で従業員のリストラ、機材等を整理しコストを削減して、とにかく生き残る為にありとあらゆる手を尽くしてきた所に今回のような大災害が発生した。

人も機材もとにかく不足し復旧活動に支障をきたした。リース会社へ連絡しても普段仕事がない事から置いていないとの事から、熊本市内の業者へ依頼したが、市内も災害で対応できる状況ではなかった。

それでも我々業者は普段地元で事業を行わせてもらっている事から、地元住民の方々が1日でも早く普通の生活を取り戻せるように一致団結して復旧活動を行った。その活動を行う従業員自身の家族も被災している方々がいる中での対応であった。

又、阿蘇市にある豚舎では8,000頭の豚が水死して全滅であった事から、豚の死骸を泥から掘り出し焼却場へ運ぶ作業や、鶏1,800羽も水死した事から隣町の土地を掘り出し埋客する等の作業も「家畜伝染病発生時の防疫業務に関する協定」に基づいて行った。

建設業者が第一線で復旧活動を行い真っ先に現場へ出て道路の確保や被災されている方々の救助等を行ったが、新聞やテレビの報道では消防や自衛隊、警察等の活動が主に報じられ、我々建設業者の活動が表に出ることはなかった。その事は大変不満に感じたと同時にとても悲しい思いをした。

しかし、地域住民の皆様から「ありがとう」「お疲れ様」とお声がけを頂いた時には、やって良かったと思えた瞬間でもあった。

今後、我々業界が率先して災害復旧等の活動を行っている事を地域住民や一般の方々等に向けて今まで以上に広くアピールしていくべきだと強く感じた。

## 4. 閉 会 11:40 終了

今回の熊本県建設業協会阿蘇支部にて豪雨災害の状況を聞いて感じたことは「大規模災害時の支援活動」に基づく協定を締結し連絡系統や支持系統の構築を行っていたにもかかわらず大混乱が生じたという点である。内田支部長からも話があったように、連絡系統や支持系統をしっかりと構築して頭では理解していても災害時においては、電話の不通やパニック状態で混乱して連絡や指示等がうまく伝わらなかったという事であった。

又、消防や自衛隊、警察よりも真っ先に建設業者が災害の現場へ出動して命がけで道路確保等を行っている姿が表に出なかったという話は大変悔しい、悲しい気持ちにもなった。

今後は業界のイメージアップと併せて災害復旧支援活動を行っている姿を広くアピールしていく必要があるのではと強く感じた。

沖縄県においても災害はいつ起こるかわからない。普段から地域住民との連携や会員間の連絡体系の再確認と併せて、行政側の指示系統の統一化を強く要請していくべきではないかと考えている。